

人 ● この地で作品を生み続ける

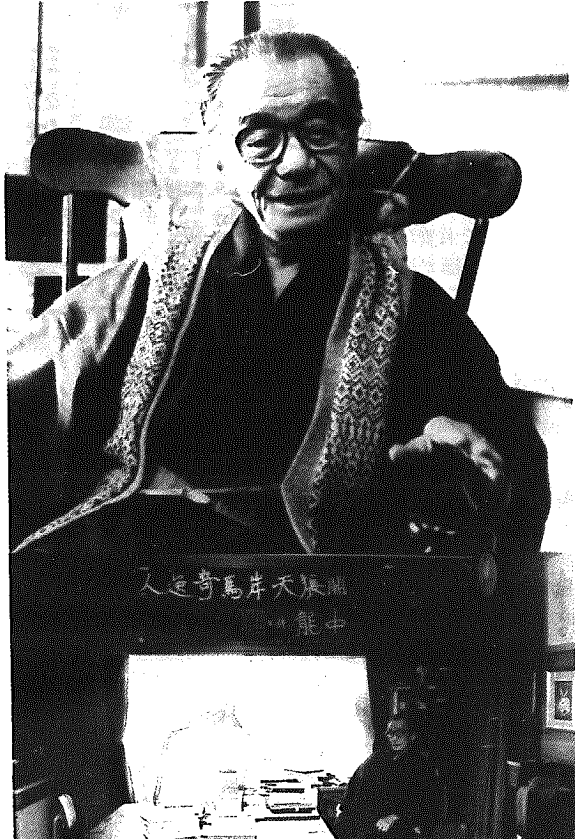
亀倉蒲舟
彫金家・七十九歳・木場

「亀倉蒲舟」この名前を人が口にしているとき、わたしたちはつい誇りを感じてしまう。「うちの町に住んでいるんだよ」と言ってしまうたり、知っていること、例えば、本人を見かけたとか、新聞に載っていたとか、近所の人が作品を持っていくとか、教えてあげたくなる。

亀倉蒲舟 七十九歳、彫金家。作品は昭和二十七年日展特選を受ける。日展会員、同審査委員、日本現代工芸美術展審査員、日本金工作家協会会員。昭和五十三年紺綬褒章受賞。など数えきれない。

氏は明治四十年に吉田町に生まれ、物心つかないうちに教職だった父の転任に伴い木場に移り住んだ。木場小から大野小高等科、新潟商業へ進み、大正十一年、十五歳のとき上京し、彫金家の叔父、小川英邦のもとで修行をつむ。

「子供のときから絵が好きでした。小学校四年のとき文展（今の日展）で見た絵の感動は忘れられません。今でも隅々まで記憶に残っています」と亀倉氏は語る。



写真上/亀倉氏。作品は自分が生きていた時間よりも死んだ後の方が長く残る、と言う。写真下/アトリエ。どこに建てようか迷った末に故郷の木場に。窓から池が見え、「何年たっても変わらない風景」を楽しんでいる。壁の書は中国の有名な漢詩

昭和十年ころ、文展に初入選。十二年からは連年入選。十九年、戦災を避けるため帰郷、以来「この黒埼という故郷」で作家活動を続けている。「戦後、彫金家としてやはり東京の方が、と思いましたが。東京から離れることは名声からも離れることを意味します。しかし、思うとおりの作品を創ることと肩書きとは違うのです」。

歌人会津八一との交流もあった。八一の書を彫ったとき、これで俺の書が三千年残ると言われたという。現在その作品は八一記念館に展示されている。二人で東京で展覧会を開く予定もあつたという。また、県展の創設にも力を貸した。

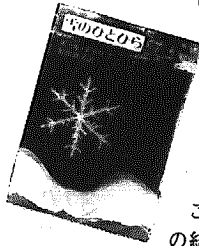
昭和四十九年、現在のアトリエを建てる。「ここで死んでもいいなと思いましたが。それからですね。納得のいく仕事ができただけは、作品は多くない。年に十数点。「ささやかなものだけれど世界に一つしかないものです」。近年は中国をテーマにしている。子息の康之氏、彬氏も彫金家である。「ここで作家活動をして四十年になりますが、ここでやってきてよかった、いい作品を生み出せたと思います」。氏の展覧会が二月にある。(五十嵐広報担当記)

ほんの一冊

雪のひとひら

(新潮社)

ポール・ギャリコ
(矢川澄子訳)



この物語是一片の雪の結晶の一生を描いたものですが、それはまた、名もない女性の一生と言ってもよいものです。それはわたしたちの母の姿かもしれませんし、わたしたち自身かもしれません。この世に生を受け、人と出会い、家庭を築き、老いて天に召される、それは平凡ではありますが、自分たちの生は決して無意味なものではない、と読む者を力づけてくれます。

雪どけの春の自然描写も美しく、鉛色の空の下では、ひと足早い春を思わせます。雪の季節に無数の「雪のひとひら」の一生に思いをはせてはいかががでしょうか。(紹介者：中山佳奈恵)

亀倉蒲舟・康之・彬

三人展

2月12日(木)～15日(日)
農村環境改善センター

なせウサギが昼寝をしたのか。答が届きました。「ペタッヒラツツル」とした大脳のウサギのお昼寝の理由なんぞとお思いませんか。おんにもないんですよ。ポヤッ、ポヤッとしてるんです。走るにも跳ぶにも食べるにも寝るにも、なんにも理由がないんです。(中略)生きていくのにはいちいち理由つけてたらたまないじゃないですか。そう思いませんか。A・Hさんからです。▼編集子はこう思うのです。ウサギは昼寝をしてみたつたのではなく、ウサギは昼寝をしないか。地道な努力だけを学んではいけないうのではないかと。負ける勇気も必要ではないかと。勝つたカメだけを讃え、負けたウサギをさげすむだけでは片手落ちのような気もするのです。昼寝の理由は負けたかったからなのですよ。▼亀倉蒲舟さん、この人をいつか広報に登場させたいと思っていました。今年の最初の取材でした。三時間話を伺いました。そして全体像はつかみませんでした。「広報に載るといことは町に認められたことですか」という一言が耳に残っています。

今月の表紙
無雪状態のため予告した雪特集を変更しました。年末にある程度取材しておいたのですが、いずれ企画したいと思っています。

来月の表紙
決算と十歳のアンケートを特集します。ご意見をお寄せください。

〈人の動き〉		前年	年比
12月末日現在	(前月比)	342	(+74)
人	22,516	199	(+143)
男	11,073	143	(+124)
女	11,443		
世帯	5,872		
12月1日～末日	113		
出生	19		
婚姻	6		
死亡	10		
	転入	52	
	転出		

